1　上伊那にくらすカエル

下山　良平

上伊那には，11種類のカエルが生息しています。そのうち，ウシガエルは，北米原産の帰化動物なので，在来のカエルは10種になります。

アズマヒキガエル

ヒキガエル科　別名ガマガエル

在来のカエルの中では最大で，大きな個体では160㎜ほどになります。平地からハイマツ帯に至るまで，様々な場所に生息します。

繁殖期は，4月半ば（低地）から6月中旬（ハイマツ帯）とかなりの幅がありますが，それぞれの場所での繁殖期はわずか10日間前後です。毎年，決まった場所にある池や水たまりに多数のオスが集まって「カウ・カウ」と鳴き交わしながら，産卵のために訪れるわずかな数のメスを激しく奪い合います。こうした光景は「がま合戦」と呼ばれます。

オタマジャクシから変態したばかりの子ガエルはたいへん小さく，真っ黒で米粒ほどの大きさしかありません。

オスは黄土色の個体が多い

メスは黒っぽい色の個体が多い

ひも状の卵塊を産むのはヒキガエルの仲間だけなので，他のカエルの卵塊とは簡単に区別できます。

ニホンアマガエル

アマガエル科

もっとも身近なカエルです。水田やその周辺はもちろん，水辺から離れた人家の壁面などでもよく見かけます。成体は22～45㎜ほどの大きさですが，それよりも一回り小さいのは変態したばかりの子ガエルです。

黄緑～灰褐色に体色を変えること，雨が近づくと急に鳴き出すことなどで知られています。

よく見る黄緑色の個体。

ニホンアマガエルの色彩変異個体。頭部が青い。

灰色の個体。よく見ると，黒い斑紋の周辺が黄緑色に見えます。

小さな体に似合わず鳴き声は大きく，のどを大きく膨らませながら，「ゲ・ゲ・・・」と遠くまで聞こえる声で鳴き交わします。

ヤマアカガエル

アカガエル科

山際の水田などでごく普通に見られるアカガエル。体長40～75㎜。

春先，真っ先に繁殖活動を始めるカエルです。3月半ば～4月半ば，気温が高く，暖かな雨が降る晩に，池や水たまりなどに多数のオスが集まって，盛んに鳴き交わします。鳴き声はとても甲高く，まるで雌鶏の声のようです。オスたちは鳴きながら水面を泳ぎ回り，手あたり次第のものに抱きついていきます。もし，他のオスに抱きついた場合は，相手の声を聞いて離れます。抱きついた相手が運良くメスだったときは，そのまま産卵・放精に至ります。

メスを待つヤマアカガエルのオス

ヤマアカガエルの卵塊

大きな鼓膜は，♂の特徴。

ウシガエル（帰化動物）

アカガエル科。別名食用蛙。

北米原産の帰化動物。大きい個体では，180mm以上にもなります。湖や池などに住み着き，牛のような「ウオーン」という大きな声で鳴き交わします。どう猛で，在来のカエルやネズミなど，口に入る大きさの生き物は何でも食べようとします。幼生(オタマジャクシ)で越冬します。

オスの鼓膜はとても大きく，眼径の数倍あります。メスの鼓膜は，眼径ほどです。

ツチガエル

アカガエル科。長野県レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類。別名イボガエル。

灰褐色で，背面や手足が多数のいぼにおおわれています。体長37～53mm。沼，湿原，水田や小川のよどみなどに住んでいます。５月から9月にかけてが繁殖期で，「ギュー・ギュー」と，まるでホオズキを鳴らしたような低い声で鳴きます。ウシガエルと同様，幼生（オタマジャクシ）のまま越冬します。

トノサマガエル

アカガエル科。長野県レッドリスト準絶滅危惧。

トノサマガエルは、水田地帯や池沼に棲む比較的大型の蛙です。成体の体長は、55～90㎜ほどです。雄は、背面全体が黄土色から黄緑色を呈します。雌は灰白色の地色に黒い斑紋が発達するため、全体が黒っぽく見えます。雄も雌も、背中の中央の明瞭なラインがトレードマークになっています。

年間を通して繁殖場所となる水田や池沼を大きく離れることはありません。辰野町付近では５月10日前後から７月上旬までのおよそ２ヶ月間、繁殖期にあたります。他の多くの蛙と同様、繁殖のための活動は主に夜間から翌朝にかけて行われます。多数の雄たちが水田や池などに集まり、水面にぽっかりと浮かびながら、「ゴト・ゴト・・」と盛んに鳴き交わします。それぞれの雄個体は、直径が1～２㎡ほどの範囲をなわばりとして守ります。なわばりの境界部分では、「グイ！」と聞こえる威嚇音や直接的な攻撃行動による雄同士の激しい戦いが観察されます。

戦いの多くは、どちらか片方の雄が逃げ出すことであっさり終わりますが、時には数分間にわたる激しいレスリングが続けられることもあります。こうした派手なディスプレイで目立つ元気な雄ほど、雌から配偶相手として好まれるようです。

日が高く昇る時間になると、ほとんどの雄個体が水田脇の畦や土手へと移動して、草陰に隠れるようにして静かに夜が来るのを待ちます。

トノサマガエルの卵塊は、球をつぶしたような塊状で、水田内や池の浅い場所に産みつけられます。オタマジャクシの時期を経て、７月半ばから９月半ば頃にかけて幼体（子蛙）が上陸します。これらの幼体が成熟して繁殖活動に参加するのは、二冬もしくは三冬を越した後です。冬眠場所は水田周辺、特に畑地の土中が好まれるようです。

鮮やかな色彩のオス

上はメス，下は幼体（子ガエル）

シュレーゲルアオガエル

アオガエル科。

「シュレーゲル」― 日本の蛙には似合わない厳めしい名前です。なぜ、そんな名前がつけられているのでしょうか。話は、江戸時代まで遡ります。ドイツ出身でオランダの医学者であったシーボルトが、二度にわたって来日し、江戸時代の日本に近代西洋医学を伝えました。シーボルトは博物学者でもあったため、研究用にと日本から多くの動植物（この蛙も含む）をオランダに持ち帰りました。シュレーゲルとは、そのシーボルトの採集品を研究したオランダの学者の名前なのです。

上伊那地方では、山際の田んぼから入笠山山頂近くの湿原に至るまで，広く生息しています。小型の可愛らしい蛙で、体長は雄で30～40㎜、雌で40～50㎜ほど、暗緑色～黄緑色に体色を変化させます。大きさや色がよく似たニホンアマガエルと混同されやすいのですが、後者のような眼から鼓膜にかけての黒帯がないことで簡単に区別できます。

上伊那地方では、４月半ばから５月いっぱいくらいがこの蛙の繁殖期になります。昼夜を問わず「カカカカ・・・」と高く澄んだ美しい声で合唱している蛙が、シュレーゲルアオガエルです。

この蛙はオープンな場所で鳴くことはほとんどなく、もっぱら田んぼの畦や土手の穴の中（つまり地中）で鳴きます。土中にいるオスたちは物音に猛烈に敏感で、人が歩く震動を感じるやいなや鳴くのを止めてしまいます。

産卵もやはり土の中で行われます。雄と雌のペアは地中で産卵・放精をしますが、そのときに周辺にいた他の雄も産卵場所へ侵入して一緒に放精することがあります。これは自己の遺伝子を残そうとする、雄の戦術の一つと考えられます。

最終的にはミカンほどの大きさの白い泡の巣が完成します。泡巣の中で孵化したオタマジャクシは水中へと流れ落ちていき、その後は他の蛙同様に水中生活を経て、変態、上陸していきます。

非繁殖期の成体や幼体は、繁殖場所周辺の森林や草むらへと分散していきます。

土手から掘り出したばかりのオス。

産卵前のペア。

白いマシュマロのような泡巣
（シュレーゲルアオガエル）

その他のカエル

以下の4種は，別項にて詳しく紹介します。

ナゴヤダルマガエル

アカガエル科。長野県レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類。

タゴガエル

アカガエル科。

ナガレタゴガエル

アカガエル科。長野県レッドリスト情報不足。

カジカガエル

アオガエル科。